

「2022年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 藤原拓也

- ① 学習成果に関して。国際理解への意欲、大学での学習（自己研鑽）の必要性に対する認識が大きく変わりました。もともと、国際理解を強く持とうという思いはありましたが、具体的にどのような分野でどのようにしてというイメージはありませんでした。国際理解といっても歴史、文化、気候、国民性、生活様式等学ぶべきものも沢山あり、その学習方法も文献、実地、伝聞とさまざまです。私はこの中で特に生活様式を実地調査で学ぶことが自分の興味の深い分野であり、国際理解を進める上で大切にしたいことであると本研修を通して知ることができました。タイでの生活様式の例で言うと、僧侶を尊ぶ文化や規則、交通網に関する認識は興味深く、実際にその状況を体験することでしか分からないことがあると思いました。これに関して程度によって表現される指標が多いため文献や伝聞等で得た知識とはどう違ったのかは、それぞれ多様な価値観があるので実際に体験した人の肌感覚でしか分からないものだと思います。私は、小乗仏教の僧侶に対する尊敬、規則は想像よりも薄く、交通網に関しては日本のものではなく、タイの交通マナー慣習を体験してバイクで溢れた状況等の整合性を理解できました。国際理解をする上で無知、または価値観の違いによる認識の違い等で偏見がある状態は決してないようにフラットに見ていきたいと思いました。また、その方法として現地に生活する多くの方にお話を伺ったり、実際に1人で体験してみることが、少しではありますがタイで実践できたのは自分にとって大きな成長となりました。

また大学での学習に関してです。チュラ大の学生と関わったり、タイで新しい経験をする中で自分の能力が世界において通用しないものであると痛感しました。世界で通用する能力はコミュニケーションの分野である程度のレベルを有していることに加え、武器となるものも持つ必要があると思いました。現在の自分に関しては、そのどちらも不足しています。前者に関しては今からモチベーションを高く取り組み、後者に関しては経験を積む中で自己理解を進めた上で武器を見つけ研鑽したいと感じました。

- ② 海外での経験に関して。マーケットでの買い物、移動手段、パタヤでの商売が印象的です。マーケットに関しては、タイ語しか通じない、臭いが強い、蝇が止まっている、甘すぎるか辛すぎるか味濃すぎる料理、値引き交渉やぼったくり、押し売りがある。移動手段は、バスがバス停で停まらない、タクシーのぼったくり、交通ルール違反の横行、バイクタクシー、熱すぎるか寒すぎるかしかないバス、絶妙な便利さの鉄道があり、大概渋滞する。パタヤでの商売は、売春婦やニューハーフ、乞食が多く見られ、大麻や、勝手なサービスの追加、騒音など、法律を守っているか分からない一面も見られました。悪く言うてはいますが、上記のこと全てが新鮮で貴重でおもしろく自分を成長させてくれる体験となりました。
- ③ プログラム内容に関して。下記、要望であるため箇条書きで、常体にします。1. プログラムの時間割の早期開示。2. HISのサービスを利用する必要性の懷疑（HISが何をしたのか知らないが、無駄に手数料がかかっているだけに思えた。大学のプログラムであれば大学で企画して貰いたい）。3. 共同セミナー発表の準備時間が不十分である。現地の学生との交流をとりにくすぎる。（タイでセミナー発表準備の時間を授業として設けるべき）4. 文化や歴史の座学はタイではなく日本で行うべき。（その分、タイでの自由時間が増える）
- ④ 進路への影響について。本プログラムによって進路選択にかなりポジティブな影響があったと思います。私がどのような進路を歩みたいかと言うよりかは、どのようにして進路を決めていくかの方針が立ちまし

た。タイでの経験は自分の視野を大きく広げて、価値観を柔軟にしてくれました。それと同時に自分の未熟さに気づくことができました。3回生になり、授業の専門性の向上、コミュニティでの役割の変化、就活など様々な変化があります。自分の人生を決める進路を選択する上で非常に大切な期間になります。タイムリミットを3回生の5月中旬として体験を通して自己分析を行いたいと思います。とてもざっくりまとめると、今回のプログラムで自分は世界で活躍することの楽しさ、自分の言語能力の低さがわかりました。